「聴こえ」を大切に考えてみましょう

参加費無料
（先着４０名）

聴力の衰え。聴こえにくくなったことを自覚するのは、筋力の低下を実感するよりもずいぶん後のように思います。

家族や周りの人に、「最近テレビのボリュームが大きいよ。」「ずいぶん話し声が大きくなったね。」などと言われたことはありませんか。筋力の低下とは違い**聴こえにくさ**は、ボリュームを上げてテレビを見たり、相手の表情を読み取ってコミュニケーションをとったり、**他の対応で補うことが可能**です。また、生死に大きく関わることではないので、自覚してもそのまま放っておく方もおられるかもしれません。

年を重ねると聴こえにくくなるということ以外あまり考えたことはありませんが、いくつか疑問もわいてきます。「聴力は鍛えられるのだろうか」「聴こえにくさは自覚してからでは手遅れなのだろうか」「一度衰えてしまったものは、回復するのだろうか」「聴こえにくさに病気は隠れている？」**「聴こえにくくなっても、それに代わる商品やソフトにはどのようなものがあるか」**このような疑問を解決し、**生活のヒントを見つけてみましょう。**

講師：医善会 にしはら耳鼻咽喉科
院長　韓（ハン）　相善（サンソン）　氏

日程　令和３年 **７月14日(水) 14：30～16：30**
（受付13：45～）

場所　ひと・まち交流館 京都　２階　大会議室
下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1（河原町通五条下る東側）

対象　京都市内在住・在勤のテーマに関心がある方はどなたでも

お願い　ご自宅で検温のうえ、マスクを着用してお越しください。
またお越しになった際には、体調チェック表に記載をしていただきますので、あらかじめご了承ください。

【お問合せ】
社会福祉法人　京都市社会福祉協議会　社会福祉研修・介護実習普及センター
〒600－8127　下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地1　ひと・まち交流館 京都
電話　075－354－8772　　FAX　075－354－8808
E-mail　kaigo@kcsw.jp